

研修計画策定/実施

到達目標：

- ・ 校内研修リーダーが勤務校に戻り、校内研修を計画して頂く際に、どのようなポイントをおさえていく必要があるのかを知る。
- ・ 学校の実態に応じた取り組み計画の作成方法を知る。
- ・ 実施を継続させていくための仕掛けを知る。

ポイント

1. 勤務校のスタート時点と研修後のゴールの姿を考える
出発点（現状）を見つめ、1年後、3年後の等の見通しを持つ
2. 校内の先生方の関心や学校の研究計画に沿った研修計画のデザインを考える
 - －① 校内研修のポイントを絞る
 - －② 学校ではどの学習に焦点化して取り組むのか
 - －③ どの場面での活用に関わる研修に取り組むか
 - －④ 学習形態と関わってICTの活用場面を考える
3. 年間計画例

1. 出発点（現状）を見つめ、1年後、3年後の等の見通しを持つ 【推進校で見られる取組のステップ】

意義面

研修面

ICT学習環境面

授業改善面

STEP 4

有効場面を組織で活かすための取組計画が作成されている

研修内容を、評価を通じ授業に生かす取組を実施中

運用マニュアル等が職員全員に活用され、見通し与えている

子どものICT活用による授業改善取組を計画的に実施

STEP 3

有効場面や、取組に関わる情報の共有が行われている

研修内容の記録が残され、共有されている

整備に関する表や活用運用マニュアルが作成されている

子どものICT活用による授業改善が試行される

STEP 2

意味・意義・必要性が職員に理解されている

計画的に校内研修が行われている

整備が組織で計画的に行われている（分掌に位置付けて）

教員がICTを活用した授業改善取組を計画的に実施

STEP 1

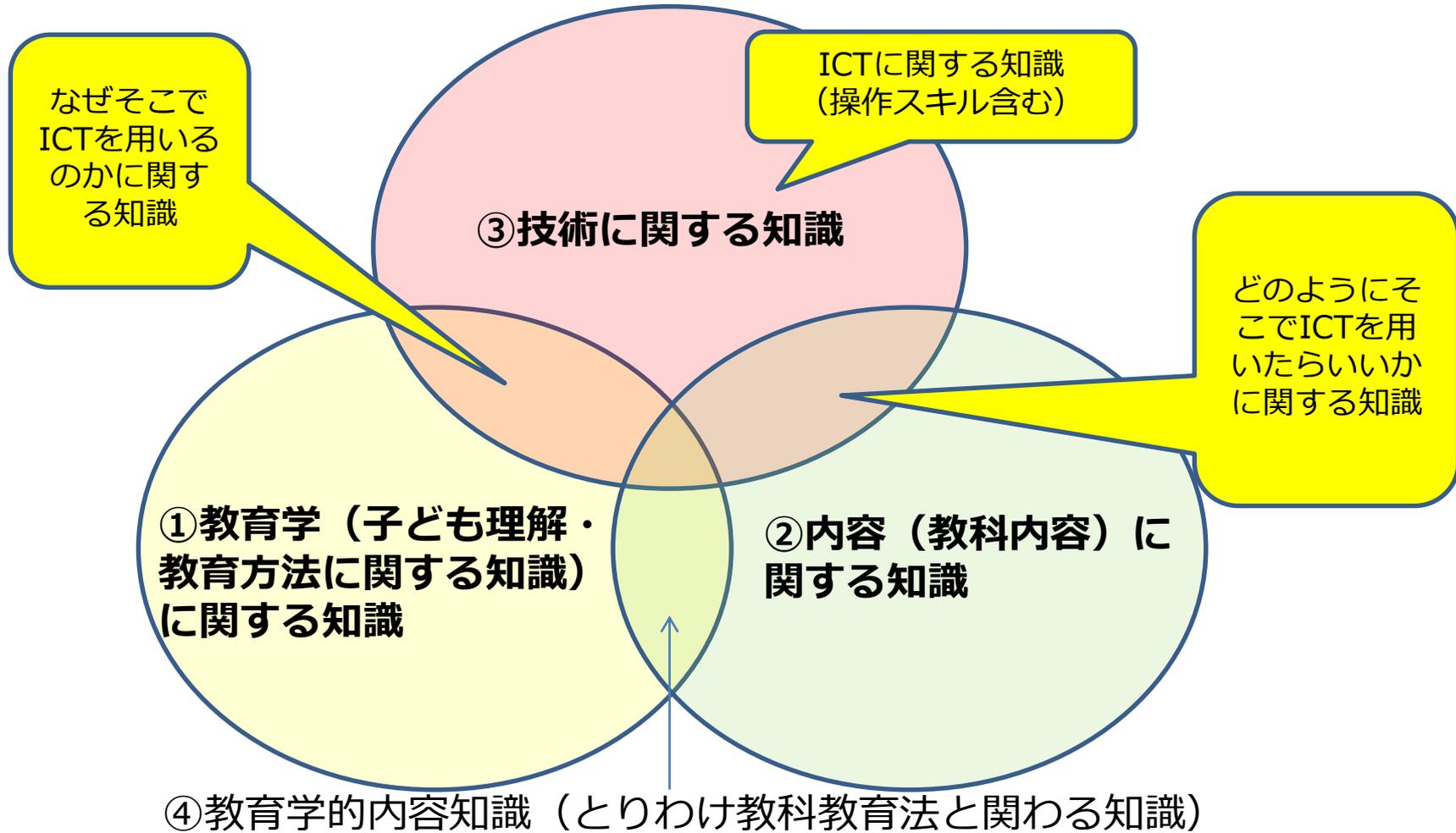
可能性・留意点などが職員に検討され始めている

校内研修が不定期ではあるが行われ始めている

整備が行われ始めている

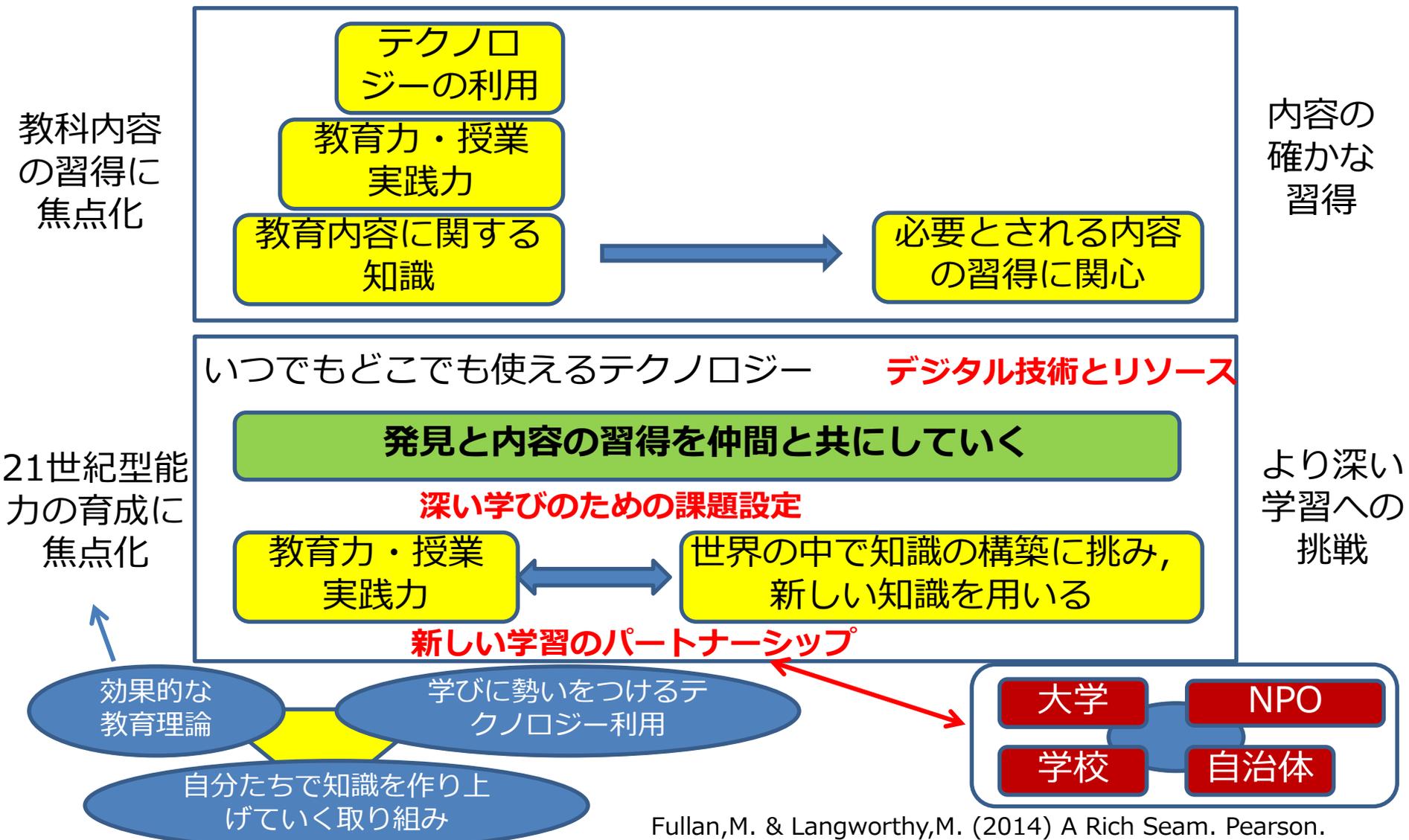
教員のICT活用による授業改善が試行される

2-① 校内研修のポイントを絞る (勤務校の今の課題はどこか?)



AACTE Committee on Innovation and Technology (ed.)(2008) Handbook of Technological Pedagogical Content Knowledge (TPCK) for Educators. New York and London: Routledge.

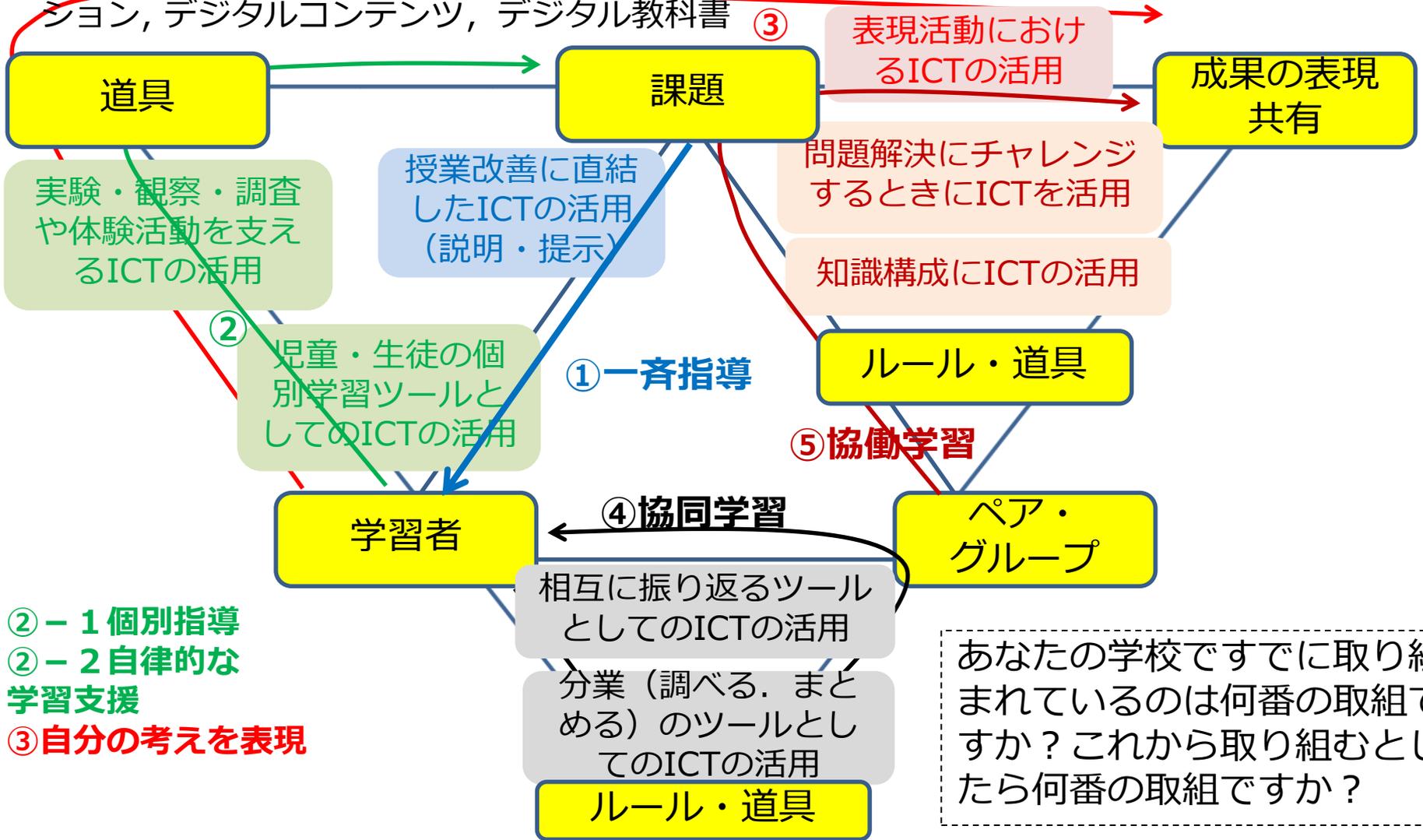
2-② 学校ではどの学習に焦点化して取り組むのか (あなたの学校ではどの学習での活用に関心があると思いますか?)



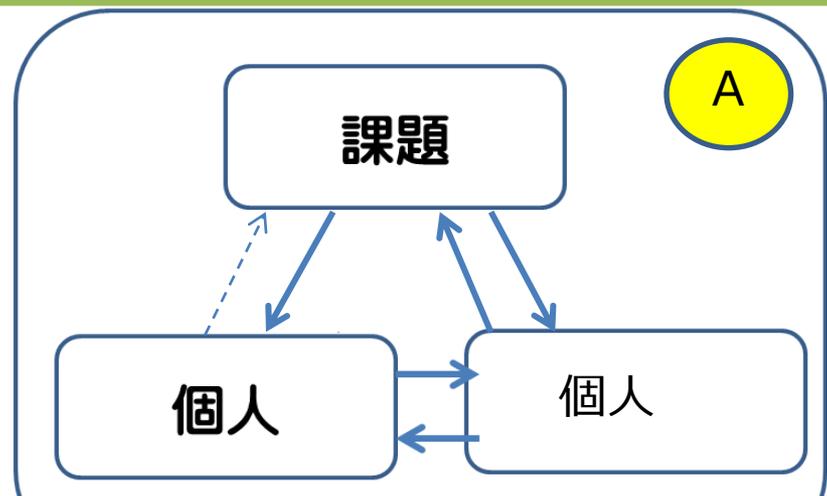
Fullan, M. & Langworthy, M. (2014) A Rich Seam. Pearson.

2-③ どの場面での活用に関わる研修に取り組むか

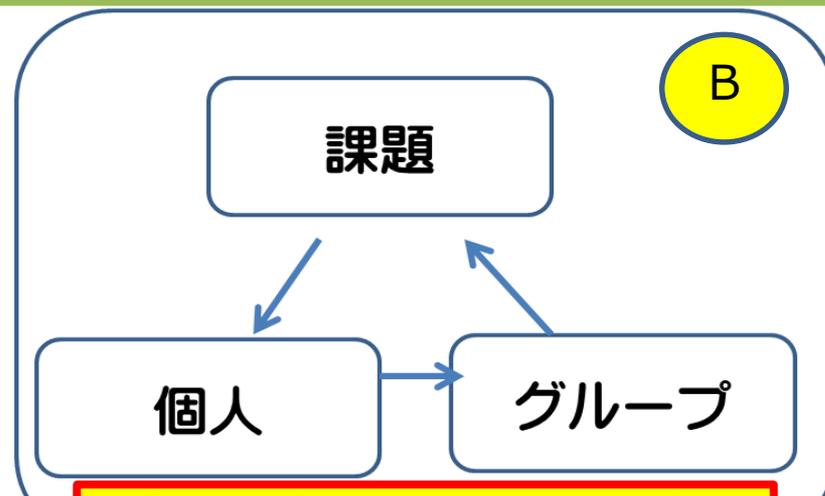
書画カメラ・電子黒板, タブレットPC, アプリケーション, デジタルコンテンツ, デジタル教科書



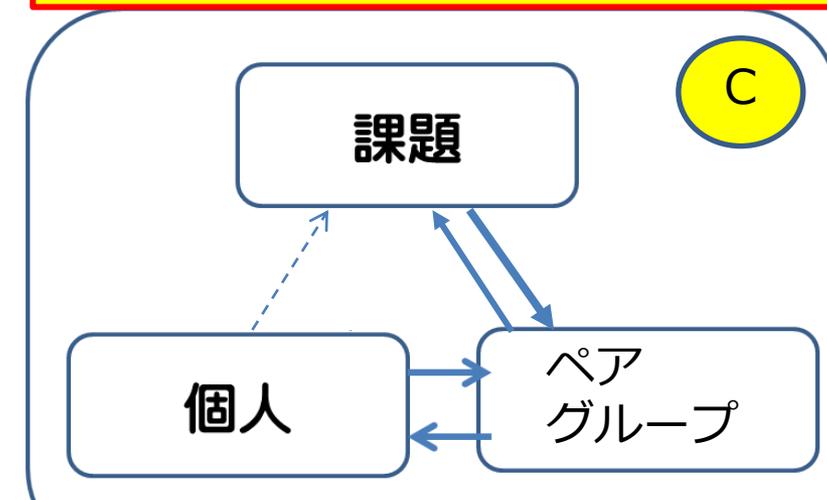
2-④ 学習形態と関わってICTの活用場面を考える場合（1）



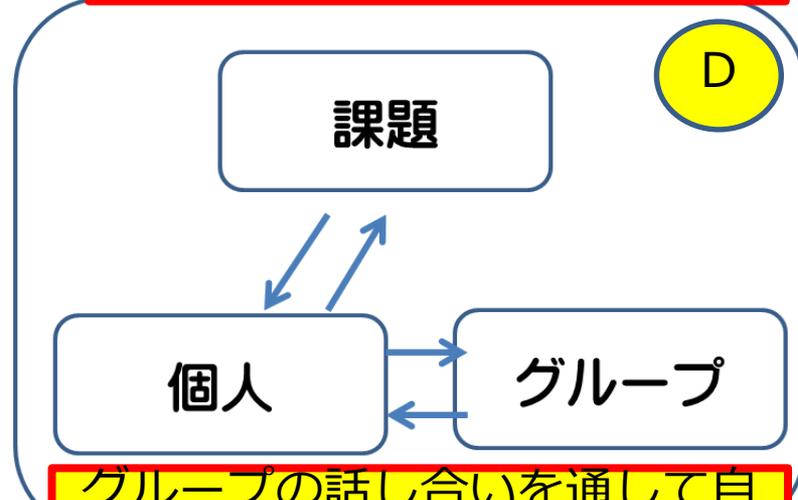
個人で考え，友達の話聞く。



グループで1つの考えに絞る

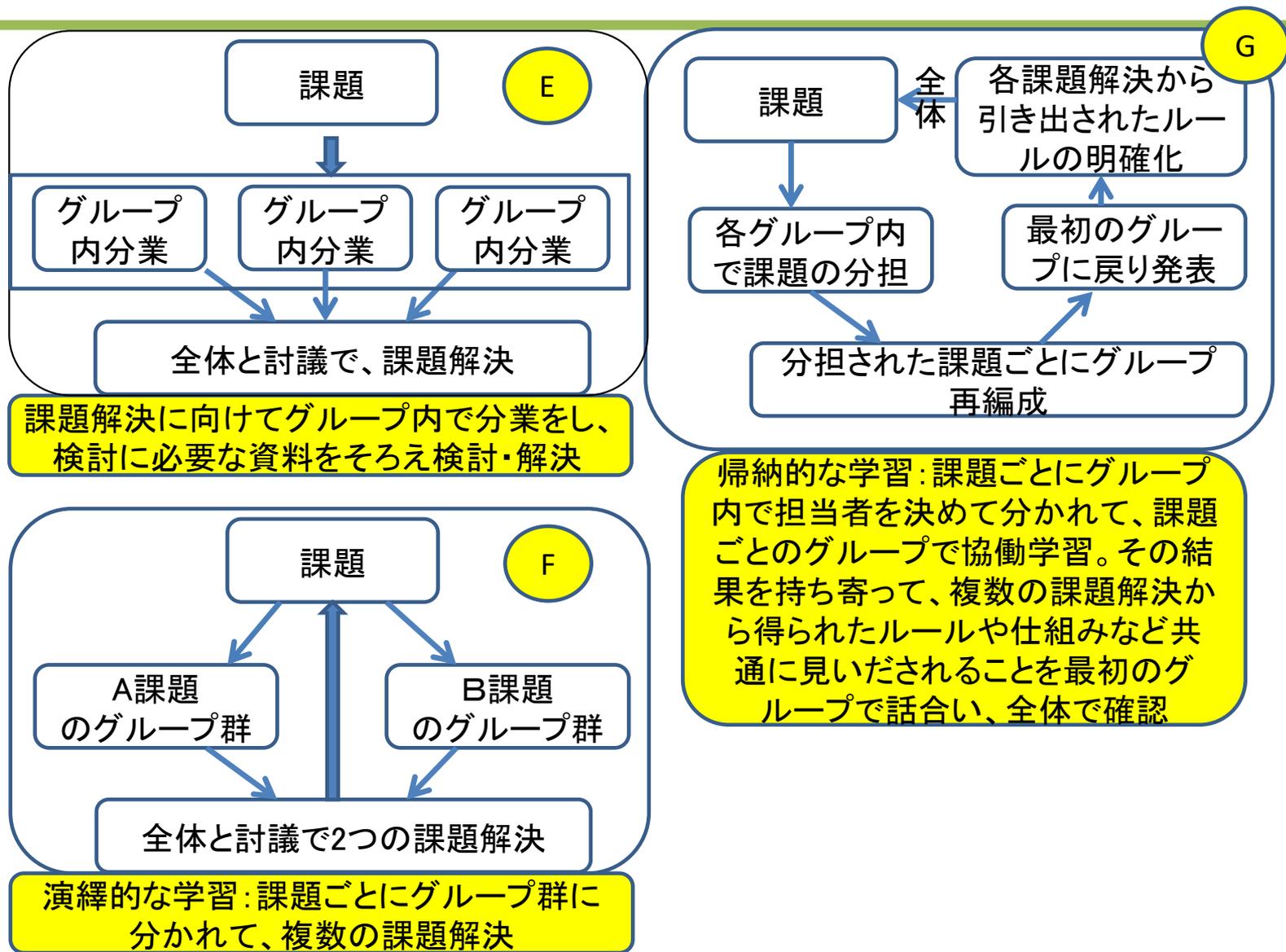


グループで課題に挑み考えを話し合う。



グループの話し合いを通して自分の考えを明確にして表現する

2-⑤ 学習形態と関わってICTの活用場面を考える場合（2）



3 年間計画の事例（佐賀県）

計画策定のポイント

■ 1. 校内研修の充実

年間計画の作成においては、「全体研修」に加え、「個人研修」を位置づけることが大切

■ 2. 学習指導での有効活用

年間指導計画の作成においては、授業実践の中で、いかにICTを有効に活用していくかの視点が大切

3-① 年間計画の事例（基本期、向上期：4～7月初旬）

佐賀県教育委員会 先進的 I C T利活用教育 活用ガイドブック（vol.1）

期	月	全体研修の流れ			個人研修の流れ	
		テーマ	内容	PDCA	内容	PDCA
基本期	4月	校内体制の樹立 ～校長のリーダーシップの発揮	①機器の整備		目標設定	
	5月		②組織の整備 ③担当者の選任			
	6月	基本スキル研修① ～I C Tを使える教職員の育成	④機器の接続 ⑤機器の操作 ⑥校務における I C T		評価	
向上期	7月	基本スキル研修② ～I C Tを使いこなせる教職員 の育成～	⑦機器のトラブル対応	課題研修		
	8月		⑧情報モラル・著作権 ⑨画家や動画の編集 (講師招聘や校外研修)			

3-② 年間計画の事例（充実期、発展期：7月初旬～3月）

佐賀県教育委員会 先進的ICT利活用教育 活用ガイドブック（vol.1）

期	月	全体研修の流れ			個人研修の流れ	
		テーマ	内容	PDCA	内容	PDCA
充 実 期	9月	指導力向上研修 ～ICTを活用し、子どもの 学びを高める授業を創造する教 職員の育成～	⑩ ICT利活用の有効性 ⑪ ICT利活用と学力向上 ⑫ ICT利活用による授業 ⑬校務におけるICT II ⑭チェックリストによる評価I （授業研究会やOJT）	③  ④	目標設定	①
	10月				技術取得	②
	11月				授業実践	⑤
	12月				評価	⑥
	1月				課題研修	⑦
発 展 期	2月	研修の振り返り ～次年度の校内体制づくり～	⑮授業におけるICT利活用の成果と課題 ⑯校務におけるICTの成果と課題 ⑰チェックリストによる評価II ⑱次年度の計画立案	 ⑧	目標設定	⑨
	3月					

3-③ 年間計画の事例（通年）

佐賀県教育委員会 先進的 I C T 利活用教育 活用ガイドブック（vol.1）

期	月	全体研修の流れ			個人研修の流れ	
		テーマ	内容	PDCA	内容	PDCA
基本期	4月	校内体制の樹立 ～校長のリーダーシップの	①機器の整備 ②組織の整備 ③担当者の選任		目標設定	
	5月				基本スキル研修① ～ICTを使える教職員の育成～	
	6月	評価				
向上期	7月	基本スキル研修② ～ICTを使いこなせる教職員の育	⑦機器のトラブル対応 ⑧情報モラル・著作権 ⑨画家や動画の編集	課題研修		
	8月			課題研修		
充実期	9月	指導力向上研修 ～ICTを利活用し、子どもの学び を高める授業を創造する教職員	⑩ICT利活用の有効性 ⑪ICT利活用と学力向上 ⑫ICT利活用による授業 ⑬校務におけるICT II ⑭チェックリストによる評価 I (授		目標設定	
	10月				技術取得 授業実践	
	11月				評価	
	12月				課題研修	
	1月				課題研修	
発展期	2月	研修の振り返り ～次年度の校内体制づくり～	⑮授業におけるICT利活用の成果と 課題 ⑯校務におけるICTの成果と課題 ⑰チェックリストによる評価 II		目標設定	
	3月				目標設定	

研修計画策定と実施のポイント

- ゴールを見つめつつ、勤務校が今どのような状況か（出発点）をしっかりおさえ、無理がない計画を立てる。（1年後はここを目指す）。
- 研修計画を立てる上で、職員の課題や意識を明確にします。（どのように使うかに目が行きますが、なぜ使うのかにこだわる教員もいるためです）
- 職員が手応えを感じる（授業が変わる。子どもに変化が見られるなど）ことを、個々人で、学年で、学校全体で感じられるところから入ります。

(参考) 校内研修実施時のワンポイント

- 校内研修は成人の学びの場であることもおさえていく
 - Andragogy (ドイツの教育者アレクサンダー・カップが1833が使用。後にアメリカの成人教育の理論家マルコム・ノウルズが成人教育の主要概念として使用→1975)
- 成人は自分たちが学ぶことについて**その計画と評価に直接関わる必要がある**[自己概念と学習への動機付け]
- **経験が学習活動の基盤**を提供してくれる[経験]
- 成人は、**自分たちの職業や暮らしに直接重要と思われるようなテーマについて学ぶことに最も興味**を示す[学習へのレディネス]
- **成人の学習は、学習内容中心型ではなく、問題中心型である**[学習への方向付け]
 - ノールズ, マルカム【著】 堀 薫夫/三輪 建二【監訳】『成人教育の現代的実践 - ペダゴジーからアンドラゴジーへ』鳳書房 (2002/02)